

第5章 推進の基本的視点

第2章「浜松市の教育理念」、第4章「浜松市の目指す教育の姿」の実現を目指し、本計画の策定にあたっての基本となる視点を以下に示します。

第3次計画では、これまでの「はままつの教育」のよさを継承するとともに、さらに今後の教育が充実するよう新たな視点を取り入れています。

1 継承すべき視点

第2次計画では、「心の耕し」をキーワードにし、心に着目した「人づくり」を行ってきました。第3次計画においても、子どもの心に着目し、「自分らしさ」を築き、それを大切にして生きていく子どもの育成を目指します。

また、第2次計画では、「夢と希望を持つ」ことは、「生きていく活力になる」と捉えていました。第3次計画においても、この考えを継続し、子どもが「夢と希望を持ち続ける」ことができるよう努力していきます。

- 心に着目した「人づくり」
- 子どもの「夢と希望」を大切にした教育

また、第3章の3「第2次計画の取組と成果」で述べたように、第2次計画では、次の取組に努めてきました。

- 幼児期から小・中学校までの学びと育ちの**縦のつながり**を意識した教育
- 家庭や地域と連携・協力した**横のつながり**を意識した教育
- 一人一人の子どもの**ニーズに応じた支援**

このような、子どもの成長を見据えた教育、地域ぐるみの教育、一人一人に応じた支援によって、子どもの可能性を最大限に高めていくことは重要であり、第3次計画でも継続していく必要があります。そして、この視点を大切にしながら、これまでに明らかになった課題を改善していくことが必要です。

2 新たな視点

第3次計画では、さらに「資質や能力」に着目した教育に取り組むことが大切です。第3章「子どもを取り巻く現状と第3次計画の方向性」に示したように、本市は、学力に関する課題、いじめ問題に見られる子どもの心に関わる課題、子どもの体力低下に関わる課題など、それぞれの課題の解消に努めていかなければなりません。

そのためには、健康な体や体力、感性や情緒、規範意識、倫理観などを大切な資質・能力と捉え、教育を充実させていかなければなりません。また、思考し問題を解決する力、

互いを認め合い他者と協働する力、自分で考え行動する力を育てる必要があります。これらの力は、知識基盤社会、グローバル化社会などを生きる子どもにとって必要な力であり、これからの社会を生きる子どもに必要な資質や能力と言えます。

さらに、現在抱える課題に対して、園・学校のみでなく、市民総がかりで取り組んでいく必要があります。園・学校、家庭、地域が「目指す子どもの姿」を共有し、理解し、協働して取り組んでいくために、行政が中心になり、市民が子どもの教育に参画できる仕組づくりを進める必要があります。

市民総がかりの教育を進める中で、子どもは、多くの大人と関わりながら、「夢と希望」「資質や能力」そして、「自分らしさ」を育てていきます。また、大人も子どもと関わることで、生きがいを感じるようになることが期待されます。

そこで第3次計画では、「継承すべき視点」に加えて以下のことを大切にしていきます。



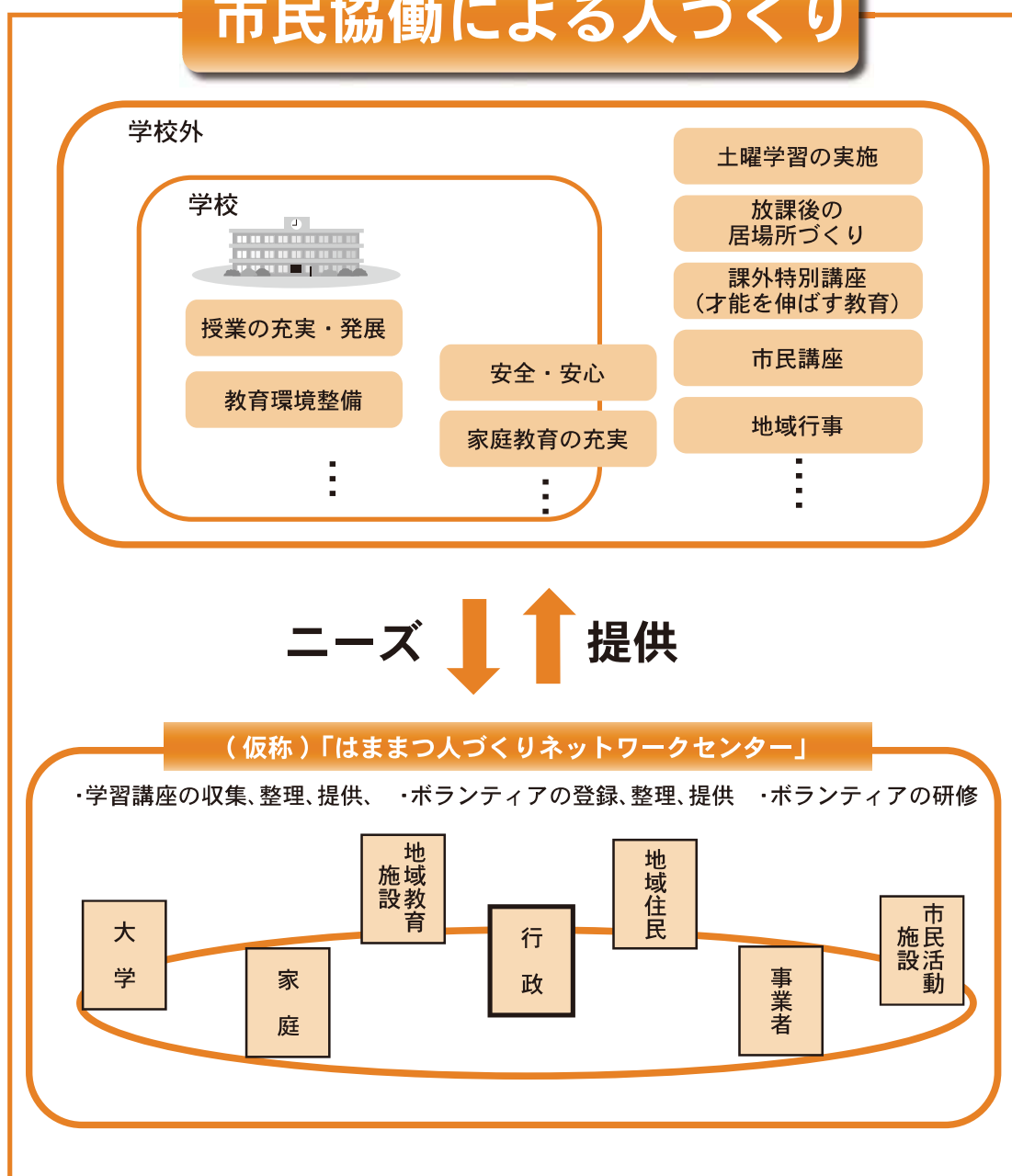
- これからの社会を生き抜く子どもに必要な**資質や能力**を育むこと
- 市民が「目指す子どもの姿」を**共有して協働**すること
- 市民の教育参画への**仕組づくり**¹⁴を進めること

¹⁴ P.35 イメージ図参照。

市民の教育参画への仕組づくり イメージ図

未来創造への人づくり

市民協働による人づくり



※市民総がかりの取組によって浜松の「人づくり」は進められます。この中で子どもも大人も育ち、育った市民により「未来へかがやく創造都市・浜松」は築かれていきます。